

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	(1) 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の編成 (2) 学習効果を高めるICTを活用した教育の開発と提供 (3) SSH教育の推進及び成果の発信 (4) グローバル人材の育成	① 学力向上進学重点校エントリー校、SSH指定校にふさわしい教育課程の実践 ② ICTを利活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究と実践及び効果の検証 ③ 探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及び国内外の教育機関との教育交流の持続可能なシステムの構築と継続 ④ 多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、交流の機会を創出し、国際性を培う。また、交流を継続する。	① 新教育課程の完成年度に向けての準備を進め、各科目の実時間数を可能な限り調整することで、授業の質の確保につなげる。 ② 授業の相互参観や年次研修の研究授業等を通して、教員間の助言や情報共有を密に行う。 ③ Meraki および SSH 海外プロジェクト部の取組により、高度な理数分野の研究成果の輩出および外部での発表会への出場の推進を行う。 ④ 姉妹校提携による国際的な交流活動および共同研究等、外国語の運用能力の向上や国際的な意識を高める取組を実施し、年度末に調査を実施する。	① 科目選択から時間割作成まで、シミュレーションに沿って計画通り進めることができたか。実時間数の調整が進んだか。 ② ICT活用指導力に関する教員アンケートの結果等。 ③ 研究が深まるように調査・実験を行った研究班の割合は昨年度と同等かそれ以上であったか。SSHに関する発信の積極的な閲覧の割合は昨年度を上回ったか。 ④ 国際性の交流活動および共同研究等により、外国語の運用能力や国際的な活動に対する意識は昨年度と同等かそれ以上であったか。	① 新3年生の講座設定、授業の展開方法の計画、受講する生徒の調整等順調に進めることができた。 ② 公開研究授業や相互参観の他、年次研修対象者を中心に相互参観を実施。 ③ Meraki および SSH 海外プロジェクト部の研究班が外部主催の発表会等に出場した。Meraki 研究の深化の取組班は34%であった。上級生の研究ポスターの閲覧は各学年で約40%となり、昨年度より増加した。 ④ 10月と12月に国際性のプログラム、1月に海外研修を実施した。CEFRのB1以上の割合は1年31.2%、2年58.3%といずれも昨年度を上回った。継続調査でも海外研修への参加意欲は全体の50%となり昨年度を上回った。	① 特別時間割による授業時間数を引き続き調整。 ② 公開研究授業や相互参観を継続、県が実施するICT実践研修なども活用していく。 ③ 学会・発表会に出場する生徒を学校全体で支援する。研究の深化については、新学習指導要領に伴う学習計画の見直しにより該当学年で目標を共有して指導を行うことで達成度の改善が見込まれる。 ④ 探究活動において外国語を活用した学習の時間を増やしていき、国際性プログラムや海外研修における生徒のパフォーマンスを高めていく。	① 学力向上進学重点校となり、さらに大変となるが頑張してほしい。 ② 努力の成果を感じる。学力向上進学重点校として、教員の指導力向上にしたいしている。 ③ Meraki をはじめとするSSHの取組を効果的に活用し、成果が上がってきているが課題もある。卒業後も探究心を継続できる取組があるとよい。 ④ 海外姉妹校との国際交流、共同研究も活発化しており、国際的な意識の向上に大いに役立つ。	① 計画や調整は順調に進められた。次年度は新カリキュラム完成となる。授業の質の確保に努めていく。 ② 授業研究も進んでいる。ICT活用度も高まっている。 ③ Meraki 等の探究活動にも深化が見られたが、継続的に取り組んでいく必要がある。 ④ 海外姉妹校との相互交流を実施できた。CEFRのB1以上の割合も増加している。さらに取組を進め、レベルアップを図っていく。	① 全体の授業時間数は特別時間割により調整する。 ② 研究授業や相互参観をさらに進め、効果的なICT活用等の実践事例を積み重ねていく。 ③ きめ細かく生徒の活動を支援し、外部での発表を充実させていく。 ④ 海外姉妹校との交流を充実させ、外国語(英語)の活用を推進し、グローバル人材育成に注力していく。
2	生徒指導 ・支援	(1) 自他を尊重し、多様性を認める社会を担う自立した人材育成 (2) 文武両道の堅持 (3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携	① 生徒一人ひとりが、自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任を弁えた行動をとれる姿勢や態度を育てる。 ② 学力向上進学重点校エントリー校における学びと行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。 ③ 校内の教育支援体制強化、支援力向上と共に、外部機関と連携活用する。	① 各種集会や行事等の活動を通じ、集団の当事者意識を高めるよう指導し、社会に貢献する態度を育む。 ② 生徒一人ひとりの価値・創造性を尊重し、多様性のある生徒会活動を計画立て、主体的に課題解決できるよう指導する。 ③ 安心して健康的な学校生活を実現できるよう、教育相談機能等を活用した支援体制の充実のための職員研修を実施する。	① 生徒が当事者意識を持ち、責任ある行動を取り、地域からの苦情が減少したか。 ② 新たな企画を検討し、主体的且つ計画通り円滑な生徒会活動が行えたか。また、生徒活動内容満足度が80%以上か。 ③ 校内関係者や外部機関と連携を取り、組織的に問題に取り組み、早期に対応することができたか。また、月1回程度の生徒支援研修を実施できたか。	① 後期において、地域からの苦情等はなかった。 ② 文化祭において、食品販売及び一般公開を再開。球技大会では、パラスポーツを新種目として実施。各行事とも満足度80%を上回った。 ③ 関係機関と緊密に連携を取り、組織的に対応するとともに、校内研修年間4回実施。	① 集団の当事者として他者を尊重した社会に貢献できる資質能力の育成を目指し、組織的な生徒支援・指導体制の構築。 ② 本年度出た課題を次年度へ向けて改善を図り、多様性のある企画を実施検討し、誰もが満足する企画運営をする。 ③ かながわ子どもサポートドックを中心としたより組織的なサポート体制の構築。校内研修の充実。	① 取組により、良識ある行動を心掛ける生徒が増えていくが、継続した注意喚起を求めるとはいえない。 ② コロナ禍を乗り越え、生徒会行事が通常開催でき、生徒はいい経験となっている。 ③ 教員の取組が実を結んでいる。	① 地域からの苦情は減少傾向にあるが、下校時のマナーについては十分とはいえない。 ② かながわ部活ドリーム大賞グランプリ等を受賞した。学校行事において、さらに活性化をしていく。 ③ かながわサポートドックを実施し、支援体制を強化でき、一定の成果改善がみられる。	① 指導を工夫し、自由と責任を弁えた行動をとれる姿勢や態度を育てていく。 ② 球技大会においてパラスポーツを取り入れる。運動の苦手な生徒も参加しやすい行事に改善していく。 ③ 校内外の連携体制をさらに強め、きめ細かい生徒支援体制を構築していく。
3	進路指導 ・支援	(1) 学力向上進学重点校エントリー校としての難関大学、スーパーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の構築と推進 (2) 高い次元での自己実現を目指す	① 正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせた多様なキャリア教育の構築と実践 ① 既存の取組における科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組	① 模試や進路希望調査の結果など生徒の学習状況や最新の入試情報を生徒及び全職員に周知し、組織的な進路指導・支援体制を構築する。 ① インターンシップなどへの参加を促し、生徒のキャリアデザインを支援する。	① 各模試の結果分析や進路希望調査の結果分析を生徒及び全職員に周知できたか。 ① 最新の入試情報を提供し、担任や学年の職員の進路指導を支援できたか。 ① 夏期講習及びSSH特別講座の受講者数、生徒アンケートの結果等。	① 模試結果を分析し、生徒の学習状況の概況を職員間で共有できた。また、3学年においては、夏休み前に全生徒の進路希望について確認し、3者面談等につなげた。 ① 夏期講習の講座は昨年度より1講座増え26講座だったが、受講者数は全体としてやや減少。実施後のアンケートでは受講生の92.2%が「理	① 生徒の学習時間を確保し、基礎基本を定着できるよう、模試の種類や回数を見直し、定期考査等も含めて、生徒への働きかけを組織的に行う。 ① 夏期講習についてはその必要性に鑑み、部活動との調整を図りながら継続していく。SSH特別講座については、今後のあり方を検討していく必要がある。	① 学力向上進学重点校となるにあたり、体制の強化を図ること。夏期講習について、生徒アンケート等を実施する等の課題を抽出し対策を講じること。 ② 外部講師などを招聘し、積極的な	① 模試結果の分析により、生徒の学習状況の概況を職員間で共有して指導にあたることができた。進路指導力の向上も図ることができた。しかし、科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への取組の強化をさらに図っていく。 ② 今後もチューター	① これまでの取組を学年間で共有し、より充実した進路指導体制を強化していく。また、今後も科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への取組の強化をさらに図っていく。 ② 今後もチューター

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるガイダンスの充実と学習環境の整備	の強化 ①教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実及び持続可能な校内体制の構築と指導実践の引継ぎ ②セルフガイダンス力を高める機会の提供や環境の充実	①夏期講習等において、生徒アンケートからニーズを把握し、より良い講座、受講しやすい講座を設定する。SSHとしての取組を踏まえた講習等の内容の充実、及び部活動との調整など環境整備を図る。 ②進路集会や進路通信及びキャリア行事を通して、これからの社会で求められる人間像を示しながら、生徒の学際的な興味・関心を喚起する。 ③SSRや自習スペースなどの学習環境を整備する。	①生徒の視野や進路選択の幅を広げるキャリア行事を実施できたか。また、インターンシップの参加生徒は増加したか。 ②生徒の求めに応じた進路情報及び生徒の知的好奇心を引き出す幅広い知見を紹介できたか。 ③SSR、自習スペースの学習環境は整っているか。	解が深まった」と回答。SSH特別講座は3講座を開講、講座数、参加者数ともに減少した。実施後全体に対するアンケートでは参加意思のある生徒が少なかった。 ②社会人・大学出張講義・チューター訪問を実施した。知の探訪は訪問先を充実させた。また、県の制度を活用したインターンシップの参加者は昨年度と同じ33名であった。 ③SSRについては、エアコンの設定温度に柔軟性を持たせ、快適な環境を確保している。また、自習スペースをより多目的に活用できるよう整備した。	②外部連携事業は、講師の選定が円滑に進むように引継ぎを確実にする。インターンシップ等へは引き続き生徒に参加を促す。 ③SSRや自習スペースの継続的な環境整備に努めていく。	キャリア教育がなされている。継続的に取組を進めること。	得への取組については、SSHの取組の中ですすめることができた。 ②社会人・大学出張講義やチューター訪問や相談会を実施し、セルフガイダンス力の向上を図ることができた。	制度の活用や、社会人・大学出張講義等を効果的に配置し、キャリア教育を充実させていく。また、多目的スペースの机配置を整備し、生徒がより活動や自習に取り組みやすい環境整備を進めていく。
4	地域等との協働	(1)外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供 (2)ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実 (3)本校教育活動のネットワークの拡大	①生徒による小中学校等への教育提供や外部機関との連携の場の創出 ②ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制整備と人材育成 ③地域や同窓会、PTA等の組織と連携した安全教育・防災教育等の実践 ④学校運営協議会の評価の活用	①探究活動やキャリア教育を支援する企業や人材による講演などを実施する。文化祭や学校説明会等を通じてSSHの取組を提供し、来訪者数の集計および実施後アンケートを行う。 ②日頃の教育活動や部活動の様子の記事を作成・更新するフローを見直し、こまめな情報更新ができる体制を構築する。 ③地域の防災関連団体や消防署と協力し、防災訓練を実施する。	①教育活動を支援する人材や企業を開拓できたか。教育活動の提供は地域の次世代が関心を高めるものであったか。 ②職員全体に情報発信を促す働きかけを行うとともに、月2回以上の情報発信・更新を行うことができたか。 ③地域と協働して防災訓練を実施できたか。	①理化学研究所、慶應義塾大学より有識者を招き講演を実施した。文化祭では中学生・保護者189名にSSHの取組を発信した。学校説明会での研究発表は関心を持った割合は90%以上であった。 ②フォーム等を利用して記事の収集をするなど、情報発信のハードルを下げるができた。 ③地域と協働して生徒向け防災訓練を実施した。	①生徒のキャリア形成や理数分野への関心を高める位置づけとしての講演、学校説明会での発信を継続する。文化祭は今年度の取組を踏まえて発展させていく。 ②定期的に職員からの情報発信を促す声掛けを行うとともに、月2回以上の情報発信・更新を行うことができた。 ③内容を考え、訓練のマナー化を防ぐ。	①生徒のニーズ、とりわけ理数系志望の生徒の実情を踏まえた外部人材の活用がなされている。 ②ホームページによる情報発信が定期的にされており、学校の動きを把握しやすくなっている。 ③学校行事への地域住民参加や地域住民との避難訓練も実施できた。継続的な取組を。	①有識者による講演や文化祭、学校説明会でのSSHの取組成果の発信ができた。 ②ホームページでの情報発信を充実させることができた。 ③地域と協働した防災訓練を実施できた。また、スクエアドストリート方式による交通安全教育を実施した。 ④今後も有識者による講演や文化祭、学校説明会の機会を有効活用し、発信を続けていく。 ⑤ホームページ上のバーチャルツアーの更新やと学校見学会の参加人数制限の緩和等により、広報活動の充実を図っていく。 ⑥今後も外部とのネットワークの拡大に努め、地域や外部と連携した教育活動を進めていく。
5	学校管理 学校運営	(1)企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成 (2)教員が教育に係る時間を確保する働き方改革の推進 (3)計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備 (4)事故不祥事防止の徹底	①企画会議と各組織・職員との双方向情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。 ②ICTの利活用をはじめ業務の効率化・スリム化を図り、「働き方改革」を推進する。 ③教育活動に資する環境整備及び安全確保を図る。 ④事故防止会議や研修を計画的効果的に行い、意識の徹底を図る。	①職員会議等で常に情報共有し、適切な人材配置や業務分担を行い、参画意識の向上を図る。 ②紙媒体の資料や文書をデジタル化することによるペーパーレス化により、会議等の効率化を図る。 ③デジタル採点の本格的導入に向け、各教科的導入に向け、各教科を更新し、教育活動の安全を確保する。 ④成績処理等の事故防止の徹底を図る。	①グループ、学年、教科等の連携を図り、学校教育活動の活性化と課題解決に繋がったか。 ②業務フローの見直しやデジタル化による業務効率化が実施されたか。 ③デジタル採点の導入実績、職員アンケートの結果等。 ④教育活動において老朽化等により安全に使用できない備品等が更新できたか。 ⑤定期試験の作成から返却までの保管等について、管理を徹底する。成績処理の運用、調査書等の作成等を適正に行い、事故防止に努める。	①常に情報共有を行い、参画意識の向上を図ることができた。 ②職員会議資料等のデジタル化を推進した。また、各グループの業務を精選した。 ③デジタル採点の教員研修を踏まえて、本格導入し、約半数の教員が活用。 ④更新が必要なものについてはおおむね更新できた。 ⑤試験作成から成績処理までのマニュアルを徹底、試験の日程や時程表をこまやかに作成するなど、ミス防止に努めた。	①今後も会議等で学校運営に係る情報共有を行い、課題解決に繋げる。 ②業務アシスタントへの依頼業務をふやす。また、削減できる業務をさらに洗い出していく。 ③試験問題の特性等により、全教科での活用には至っていない。スキャナー機器をより充実させることも必要であり、環境整備を進めていく。 ④安全に使用できないものが出てきた場合は、使用を中止し速やかに更新していく。 ⑤出欠席の集計や成績処理の日程など、学校行事との調整も必要なことから、引き続き各グループと調整しながら進めていく。	①学校の意思決定が非常にきめ細かく良いと感じている。 ②会議資料のデジタル化や採点のデジタル化など、働き方改革に踏み込んだ積極的な取組が評価できる。教員の負担軽減に向けて更なる取組に期待する。 ③きめ細かく整備している。 ④引き続き効果的な取組に期待している。	①適切に情報共有を行うとともに、次年度に向けてグループ編成の改編を行った。 ②業務のDX化を一定程度進め、業務改善につなげることができた。 ③老朽化備品の更新など、環境整備を一定程度すすめることができた。 ④不祥事防止会議や事故防止研修を定期的開催した。また、各種マニュアル等の整備を行った。 ⑤さらなる参画意識の向上を図り、全職員が参画する学校経営体制を構築していく。 ⑥業務アシスタントを有効活用し、教員の教育活動の時間を確保していく。 ⑦予算を計画的にそして適切に執行し、環境整備を続けていく。 ⑧引き続き事故不祥事防止について職員の意識向上を図るとともに、行事の適切な計画や日程の調整を行っていく。